

■ 事例報告

[守谷市南部地域包括支援センター]

H氏 [女性] 87歳

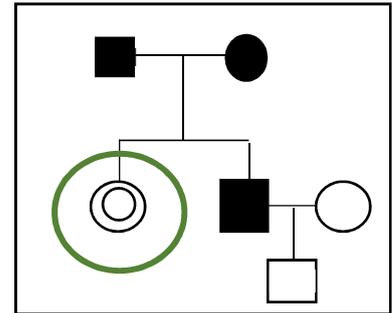
【病名】 乳癌術後(26年前)、高血圧症
無呼吸症候群(シーパップ利用)

【家族背景】 独居

令和6年12月 実弟が他界

【生活状況】 ADL 自立、IADL はほぼ自立

動作が緩慢、疲労感がある状態 屋内は杖なし伝い歩き、屋外は杖歩行
掃除は、知り合いや近所の方が支援 / 外出は友人と一緒に



【支援経過】

令和4年～ 高齢者訪問として毎年訪問

令和7年6月 高齢者訪問(民生委員同行)体の動きが以前より悪く動作緩慢となり、
気がない様子を心配し同行訪問希望

弟の他界による精神的、身体的に不安定で今後の生活について相談あり
このままだと廃用症候群により日常生活に支障がでてしまうと判断

・令和7年7月 フォロー訪問

介護サービスの利用は希望なし

「緊急通報システム」の利用希望があったが、緊急連絡先がなく一旦保留

・ 8月 介護福祉課より情報提供あり、本人が友人と共に介護保険申請
身寄りがないため包括職員に認定調査の同席の依頼があり

歩行状態が悪く、動作緩慢、疲労感強く調査中にも横になる状態であった。
友人に買い物やゴミ捨てのサポートを受けてなんとか生活。安全な入浴や
リハビリのために介護サービスの提案を行う

・ 9月 実弟の法事の際に甥と連絡がとれ、緊急連絡先を確保できたことで緊急通
報システムが導入

・ 10月 友人共に通所介護サービス利用希望ありCMを決めサービス利用開始し、
定期的な外出と機能訓練により閉じこもりと廃用症候群の予防につながる

【今後の方向性】

現在、友人と共に通所介護サービスを利用し、友人や地域の人に助けられながら日常生
活を送ることができている。CMとキーパーソンとなる家族と連携を図りながら今後も支援を
行っていく。